

「県民と県議会との意見交換会」 遠野会場 の概要

〔日 時〕 平成27年4月22日（水）13：59～15：58

〔場 所〕 遠野地区合同庁舎1階 会議室A

〔テーマ〕 「地域資源を生かした観光振興について」

〔参加者〕 （8名）

伊 藤 由紀子（遠野みらい創りカレッジ）
川 口 春 貴（東日本旅客鉄道株式会社盛岡支社遠野駅長）
小 船 未 来（一般社団法人遠野市観光協会 スタッフ）
須 藤 優 子（遠野商工会女性部 副部長）
高 宏 美 鈴（ねまるべ遠野 代表）
堀 内 朋 子（一般社団法人遠野ふるさと公社 観光振興統括）
松 田 良 友（遠野商工会青年部 副部長）
三 浦 芳 昌（遠野旅館ホテル組合 事務局長） ※ 敬称略

〔出席議員〕 （8名）

佐々木努議員、佐々木大和議員、柳村岩見議員、佐々木順一議員、後藤完議員、大宮惇幸議員、
高橋元議員、吉田敬子議員

〔オブザーバー議員〕 工藤勝子議員

〔事務局職員〕 （5名）

◆ 参加者自己紹介及び現在の業務や活動状況の紹介

○伊藤さん

遠野市経営企画部まちづくり再生チームから、今年4月に遠野みらい創りカレッジへ派遣された。カレッジは、遠野市と富士ゼロックス株式会社が協定を結び共同運営する組織で、昨年4月8日に開校し、今年2年目を迎えた。企業や大学、地域住民が共に地域課題を学び、対応策を考えるほか、そのこと自体が人材育成の場になることを目指している。

昨年は可能な限りカレッジの存在を知っていただこうと、可能なプログラムは全部実施するスタンスで運営を進めた。プログラム利用者は当初2,000人の目標に対し3,600人程度で、下半期は地域住民の利用が多くなった。

今年度は運営基盤を強化し、今までやってきたことで続けられるものは何か、もっと違う取組ができないか検討し、来年度は今後のビジネスモデルの具現化について取り組む予定である。

○川口さん

遠野駅の駅長をしている。

前任地の一関市では世界遺産登録関係もあったが、遠野に異動となってからは、JRとして震災復興や地域の活性化のため、今年4月25日で2年目になるSL銀河の運行など、いろいろなことに取り組んできた。今後もさまざまな取組を検討していきたい。

○小船さん

生まれも育ちも京都で、6～7年前に遠野市へ来て、その後観光協会に入り、丸5年経った。遠野市観光協会での通常業務は、観光案内、併設している売店の運営、県内や県外では主に関

東などへの営業である。観光協会で今まで取り組んできたもので、メディアに取り上げられているものといえば、カップ捕獲許可証やジンギスカンである。最近では、遠野といえばジンギスカンとようやく名前が出るようになってきた。

また、SL等でのおもてなしを、市内の観光関係者と一緒に行うほか、最近では、聴き旅というスマートフォンを利用した旅の案内システムを4月25日から導入予定で、市外の方は勿論、市民にも遠野の街中を散策してもらうことで、街を活性化させていきたい。

もう一度遠野の良さを皆で考えていければよいと思っている。

○須藤さん

出身は遠野市だが、高校卒業後、学校、就職等で18年間遠野を離れ、結婚を機に戻った。戻った先は写真館で、サラリーマンから自営業に変わり、全然違う畑で勉強している状態である。

所属する遠野商工会女性部は創部46周年で、今年16回目を数える遠野町家のひなまつり事業に取り組んでいる。これは、創部30周年の時に女性部で街中の賑わいのために何かができないかと考えたもので、城下町であった遠野には古いおひな様があり、昔、雛見の習慣があったことを思い起こして始めたものである。後でこの事業についてお話させていただきたい。

○高宏さん

ねまるべ遠野は全員が民間の市民団体であり、皆で何か面白いことをやろうと震災の前年に立ち上げた。最初はお金をつくってから何かやろうと考えていたところ、震災があり、考え方を変えた。最初にやった事業がチャリティバザーだった。震災直後の桜まつりが中止になり、その空いた会場を利用して行ったところ、本当に短時間で大勢の方に協力していただき約60万円集まった。お金ありきのイベントではだめと気づき、0円スタートのイベントをやるようになった。

今年は駅前において、「バケツでジンギスカン」や、約50店舗に協力いただいた「ちょい飲み遠野ではしご酒」、去年は「蚤の市」などを開催した。

飲食店の人達は地元に対する意識が低かったが、イベントによって意識も変わり、触れ合い、つながりという思いが出てきた気がする。やはり観光は住んでいる人達の意識改革が一番大切と思っている。駅前で電車を降りてきた人が賑やかで楽しいと思え、また、どこからも寄附をもらわず0円でできるイベントを、どんどんつくっていききたい。

○堀内さん

ふるさと公社は、盛岡南イオンの結いの市、道の駅遠野風の丘、遠野伝承園、たかむろ水光園、遠野ふるさと村を管理運営している。これまでは各施設がそれぞれ営業活動をしていたが、繁忙期は営業に力が入りづらく、今年から観光振興部門を新設し、私が営業中心に担当している。

今後は、インターネット環境の整備を図り情報発信を常にできるようにするほか、外国人のインバウンド観光について、いろいろと情報を仕入れていきたい。

また、昨年商工会の事業でマーケティング調査を行った結果をもとに、今年は関係機関と連携して、さらにPR活動や誘致活動に力を入れていきたい。

○松田さん

家業は花屋で私は三代目である。遠野商工会青年部という組織は、商工業の40歳以下の経営者又は後継者で構成され、部員数は現在31名である。青年部活動は主に経営者としての資質向上を目指し、地域振興活動など新しいまちづくりに取り組んでいる。

市内の少子高齢化や、若者の足が中心市街地から遠のいていることに着目し、平成25年度から遠野市や観光協会、市内飲食店の協力により街コンを2回開催した。市内外から20~40歳代中心

に多数参加いただき成功だった。今後婚活事業を行っていくうえで、観光施設や観光名所の婚活ツアーやSLと絡めても面白いかなと考えている。

○三浦さん

事務局長を8年前に拝命し4期目となった。民宿を経営している。8年前は旅館も民宿も組合がバラバラであったが、宿泊の組合を一括にした。組合員を11軒から18軒に伸ばした。

宿泊施設は、個々に経営状況が全く違うため、組合としてあれこれ指図はしない。あくまでも我々の商売は受け身であり、お客様には不快な思いをさせず、気持ちよく遠野で観光や宿泊をしてもらい、また遠野に来てもらうということの繰り返しである。

後継者がいない高齢の経営者も若干いるため、どうやって支えながら継続していくかが今一番の課題である。今後、遠野の観光を私たちが陰で支え、後押しする形で頑張っていきたい。

◆ 意見交換

○柳村議員

さまざまな観光客の幅広い要望に接し、感じておられることがあると思うが、最近はどのような傾向があるか。

【回答：小船さん】 時期的なものもあるが、年配の御夫婦やグループが多い。夏になると、小さなお子様を連れた家族連れが増え、3月には長期の春休みで大学生が来る。特に、遠野市は大学との連携もあるので、震災後、大学生がかなり増えたと思う。

観光案内所に来られる方は、いろいろな情報を知りたいという方が多いと思う。個人的に自分で調べて来る方はあまり案内所には寄らず、自分の携帯やネットで調べた情報や雑誌を持って、調べた所に直接行っていると思われる。

【回答：三浦さん】 今のお客様は基本的に宿の食事をとらない方が多い。食費を削って交通費など別のところにお金をかける。若い人の例を見ると、コンビニに通って食事をする。まれに夜は居酒屋に行くことがあっても朝は食べない。

我々としては二食食べ、ビール1本でも飲んでいただければ一定の利益になり、その中でお客様と交流できる機会もある。そして、夕食後、夜の街へ行って市民の方と交流いただくのが理想的である。今のお客様、特に都会の方たちは、手を伸ばせば何でも手に入るため、素泊まりで、食事はコンビニで済ませ、お金をかけない方が多い。

○佐々木（努）座長

観光客が夜に市内の飲食店を回るのは結構あるのか。

【回答：高宏さん】 やはり街を見たい、名物を食べたいという話はある。例えば、うちの店でもジンギスカンを置いているが、本格的なものではないため専門店をお勧めしている。遠野ではいろいろなものが食べられる気がしているようだが、そのような人でもやはりコンビニは必要らしい。遠野の街中にコンビニは1軒もない。車でも5分かかる。街で楽しんでいてもやはり最後はコンビニへ行きたいというお客さんばかりで、コンビニ慣れしている。

素泊まり客で街へ出るのはおそらく2割程度。旅館が満室と聞いてこちらは身構えるが、街に人が全然いないこともあり、便利に安く済ませる人が多いようだ。ここまで来てコンビニへ行かなくてもと思う。お客様の意識改革をしなければと思う。

○佐々木（大）議員

観光客を誘導するに当たって、どの辺がターゲットになって、何を満たすかということになると思う。遠野の場合はお客さんの流れはどのあたりからとなるか。

〔回答：川口さん〕 フォルクローロ遠野では、夜は外で食事をするシステムにしていた。パック商品の場合、料金は通常の往復交通費で宿代がただという形になり使い勝手がいい。利用者は半分くらいが東京圏からで仙台圏より多い。それ以外に遠野に泊まった観光客を見ると、2割くらいが東京圏であった。仙台圏からとなると鉄道ではなく車の利用者が多い。

土日を中心に年間80回運行しているS L 銀河は定員170名以上だが、終点まで通しで乗る客は1割くらいで、遠野駅で約150人が降りて150人が乗り込む。遠野駅では1時間ほど休憩時間があり、お昼は多いときで弁当が150個くらい売れたこともあり、お菓子などが半分以上を占める土産は、1時間で100万円ほどの売上となる。

要は、お客様との接点をどのように付加して売っていくかということだと思う。

○佐々木（大）議員

観光ルートとして、平泉からどのような形でこちらへ来ているのか。平泉が世界遺産になったことで遠野にはどのような変化があったのか。

〔回答：小船さん〕 平泉までの道を尋ねられることはあるが、遠野の観光客が増えたという実感はない。距離的なこともあり、平泉よりは花巻とのかかわりが大きい。

〔回答：堀内さん〕 世界遺産の平泉、語り部の遠野、そして釜石という流れで関東方面からのツアーを組むエージェントもあるので、多分、個人よりは団体のツアーの方が多いと思う。

○佐々木（大）議員

ツアーの企画に対する市など行政の支援はあるか。

〔回答：小船さん〕 花巻観光協会でクラシック街道というツアー企画があり、それに乗る形で、去年とおととしに遠野の語り部やふるさと村での食事を組み入れてもらった。

エージェントを回る際には、パンフレットだけではなかなか組み入れていただけないので、企画を持って行かないといけない。その辺は今後も連携が必要と思っている。

○大宮議員

遠野のジンギスカンは有名だが、肉の年間消費量はどの程度か。また羊はどの程度飼っているか。

〔回答：高宏さん〕 ほとんど飼っていない。今はニュージーランドやオーストラリアからの輸入に100%頼っている。市民一人当たりの年間消費量は約2.3キログラムである。

観光客をメインにして駅前で「バケツでジンギスカン」をやると、自宅でも食べているはずの地元の人がすぐ来る。駅前ですべて楽しく食べたいという意識があるのかも知れないが、それに釣られて観光客にも食べていただけているので良いことと思う。

○大宮議員

少子化の影響で県内全般に廃校が出てくるという課題があるが、地元だけでは廃校の利用は難しい。企業と連携した遠野みらい創りカレッジの経験、ノウハウを御教示いただきたい。

【回答：伊藤さん】遠野市では9校あった中学校が少子化により3校に再編され、廃校のうち1校をゼロックスと提携して、研修施設として活用することとなった。

ゼロックスとつながりを持つきっかけは、同社の復興支援活動を通して、本当の地域課題に対応しなければ真の復興支援にはならないとの考えから、後方支援活動を行っていた遠野市を拠点として研修プログラムを組んでいただいた。

最初は社員の方が市職員、大学生に交じって地域課題の探し方等の研修を始めて、そこからプログラムをつくっていき、今は他の市町村へ持って行っても活用できるような仕組みができないか検証している途中である。やはり企業である以上、採算を取って黒字化できなければならないので、同様に廃校をどうしようか悩んでいる市町村にノウハウを持って行けるような商品化の可能性も考えている。

外から人が来てくれれば、地域の人が紹介するために、地域の人が遠野の良さを考えたり、探すようになり、それが実際のプログラムになり、最終的に観光商品や人材育成につながるかもしれない。カレッジの活動は観光に直接結びつかないかも知れないが、将来的には人材を育てる、良いところを見つける、外からのニーズを把握できるなどの面で、間接的に貢献できると思う。

○佐々木（努）座長

市内にゼロックスが来て研修することで、波及効果はあるか。

【回答：堀内さん】遠野ふるさと村の曲り家を新入社員研修、ワークショップの会場として使ってもらっている。また、社員が個人的に曲り家を気に入ってパソコンを持ち込み、こたつで仕事するなど自宅のように使う場面もあり、良い使い方をしている。

【回答：伊藤さん】12月市議会で報告した算定によれば、宿泊、仕事、土産など新規需要額は約1,800万円、また、経済波及効果は約3,700万円であった。

【回答：堀内さん】人のつながりも増えているので、これからますます発展していくと思う。

【回答：高宏さん】夜の街にもそういう人が来ていると賑わっている。思いがある人達なので、街に繰り出してくれる。

○高橋議員

マーケティング調査の結果、来訪者の3割に移動支援サービスを検討しなければならないとの課題があるようだが、その検討はどうされているか。

相応の満足度ランキングでは、1位が景観・雰囲気、2位はスタッフ対応、3位が住民対応ということで、街を挙げて観光客に接していてすばらしいと思うが、住民の方々には接し方などどのようにPRしているか。

宿泊客は、旅行会社を通じるのか、インターネットで直接予約するのか。利幅の少ない素泊まり客に対し、食事内容等のPRは何か行っているか。

【回答：堀内さん】おもてなしの部分については、地域性によると思われる。皆、人が良い。特に教育を受けている訳ではなく、いらっしゃれば何かしてあげたいという思いが強いので、多分、それが外からのお客には心地良いのではないかと。

二次交通については、観光協会でレンタサイクル、レンタカーを貸し出している。

〔回答：小船さん〕 レンタサイクルは結構利用いただいている。遠野駅からカップ淵、伝承園あたりは約5キロ、片道25分くらいで、サイクリング気分で見学でき、利用者も多いが、ふるさと村や曲り家千葉家は、坂もあり距離も11~12キロある。また、山口の集落へはバスもほとんどなく、自転車でも距離があるので、車でないと本当に不便である。そういうところをお客様がおっしゃられていると思う。路線バスの増便も見込めず、去年実施した乗合タクシーくるり号も、宣伝不足や料金が少し高いせいか利用者があまりいなかったの、考えていなくてはいけない。レンタカーの利用も結構あり、便利なのはやはり車という形で捉えられていると思う。

〔回答：三浦さん〕 遠野市最大のホテル、あえりあ遠野の取締役もしているが、最も多いのはエージェントからの予約で、次がインターネットである。エージェントからは部屋数何室という形で押さえられ、その間泊まりたくても泊まれないお客様が出てくるのは非常にネックである。インターネット予約も3~4日前にキャンセルされる場合には同じような状況となる。そのあたりを上手くやらないと、なかなか部屋が満室にならない。今はフェイスブックでお客様を紹介してくれる方もおられるので、口コミが一番良いのではないかと考えている。あえりあ遠野に関しては、昼食のためだけに立ち寄るお客様もいて、泊まりは花巻温泉や沿岸方面というパターンがある。サービスに関しては、私の所は素泊まりのお客様が多いが、コンビニが遠いのを逆手に取り、おにぎりをサービスとして出している。素泊まりであってもお客様であるので、こちらから仕掛けることによって、今日は1人で来たけど次は2人、3人という形でまた来てくれればそれでOKと思い、いろいろなサービスを考えている。

○佐々木（順）議員

一時期リゾート開発が全国各地で行われ、ほとんど失敗に終わったが、逆に遠野市は歴史、風土、文化を大切に観光に携わってきたことが、今、全国から注目を浴びていると思う。

田舎暮らし、遠野に魅力を感じて、例えば東京から移住する事例があるか。

〔回答：小船さん〕 全体の件数はわからないが、私自身高校まで京都にいて、大学で北海道へ行き、その後、遠野へ来て5年以上住んでいる。人口規模の割には比較的多いのではないか。遠野に来るきっかけは、東京のNPO法人が受け入れ地域と連携し、一年間その地域で生活させるという緑のふるさと協力隊に応募し、遠野が自分の派遣先になったことである。遠野は旧宮守村時代から10年以上受け入れを続けており、半分くらいの人は遠野に残っており、話す機会も多い。地元へ戻った人でも年1回以上は遊びに来るなど交流は結構ある。

○佐々木（順）議員

先程コンビニの話があったが、遠野でコンビニを求める必要があるのか。コンビニの建物は遠野市内の景観には合わない。

〔回答：高宏さん〕 都会からいらっしやると、コンビニがないのが不思議らしい。それが売りになると言っているが、やはり必要なのだろう。

○佐々木（順）議員

せつかく和風のお店が多くあるのだから、そういう雰囲気コンビニをつくってはどうか。

【回答：川口さん】コンビニのデータを見ると、駅周辺は厳しいようだ。バイパス沿いではある程度のカウント数は稼げる。

【回答：高宏さん】民宿りんどうのようにおにぎりを出すとか、うちもお客さんの欲しいものを聞きつくってあげている。冬以外はコンビニまで散歩がてら歩いてはどうかと案内している。

【回答：伊藤さん】市で景観条例をつくっており、歴史的街並みを生かす、残す、色に配慮するという取組が始まっている。蔵のつくりを生かした昔話の館、観光協会や市産業振興部が入居する建物も統一感を持たせている。地域の古い建物を大事に地域で守ろうとする取組として遠野遺産という制度があり、国の重要文化的景観である土淵町山口の水車近辺も指定されている。来る方にも懐かしく感じられる街並みを残していく。

○吉田議員

観光客の年齢層について各年代幅広いようだが、20～40代が60歳以上の年代より多い。若い人は食よりも別のところにお金をかけていると思うが、具体的には何か。

観光客を増やすためには滞在型の観光資源が必要だと思うが、遠野に住んでいる皆さんは、ジスキャン以外に何が目玉だと思っているか。

台湾からのチャーター便があるが、花巻空港からこちらへ来る外国人向けの戦略はあるか。

【回答：三浦さん】若い人のお金の使い方を分析してみると、食べているのはコンビニのおにぎりや弁当のようである。学生のお客様の話を聞くと、基本的にお金がないので、一部屋に3～4人泊まっていくだけでも安く泊まる、交通費がかかるのでレンタカーを借りるなど節約している。中には、自転車を列車に積んでやって来るお客様もたまにあって注目している。例えば、新花巻で新幹線を降りてから、自転車を組み立てて遠野まで来る。遠野からは自転車を畳んで列車で釜石まで行って、そこから沿岸を自転車で回る旅をされる方もいる。

○吉田議員

遠野は農林業も一生懸命頑張っているところでもあると思うが、どのように連携しているのか。

【回答：高宏さん】点と点は大きいですが、まだちゃんとした線になっていない部分が多い。何となく遠野を耳にしたことがあるが、目的があって来たという訳でもなく、遠野へ行けば何かあるかもと漠然と思っているお客さんが多い。

【回答：小船さん】そのとおり。次の電車までの時間にどこを見たらいいかという質問が案内所では多い。そういう時は、何に興味があるか伺って、それを踏まえてお勧めしたり、移動手段に合わせた提案をしたりしている。

【回答：高宏さん】例えば馬の関係者とか、色んな人たちとの交流を遠野でもやっていくと良いかも。本当に点と点はしっかり形になっているが、まだそんなにつながりがある訳ではない。みらいカレッジの方がお客様としてよく来てくれるが、こちらから行ったことがない。そういう部分は遠野としての課題であり、どこの街でもそうだと思う。

【回答：伊藤さん】カレッジでの体験研修で農林業とのつながりもあるが、それぞれ確立した活

動をされているので、声を掛けコーディネートする役割をカレッジが担うことになると思う。さらに、カレッジが間に入らなくても活動がステップアップして商品化できれば良いと思う。外国人に関しては、英訳された遠野物語を持ったヨーロッパ系の研究者が来ている。

【回答：川口さん】 駅には毎日十数人の海外の方、特に欧米人が多く、ここ数年多くなってきているが、台湾人は割と少ない。岩手県は知らなくても、平泉、花巻温泉、遠野は知っている。半数くらいが目的はなく、どこへ行ったらよいかという人が多いので、その場合は、観光バス、タクシー、語り部タクシー、レンタサイクルなど二次交通を紹介している。食べ物については、遠野牛、亜麻豚、ジンギスカンなど。以前、紹介していた郷土料理では、原発事故以来、山菜が出せなくなったのが残念である。

○吉田議員

コンビニなど何もないのが逆に価値だと思う。その価値を遠野市が持っているので、是非観光につなげていただきたい。

【回答：川口さん】 アンケートで、なぜ遠野に来たかと尋ねたら、昔は映画「遠野物語」、その後は「まんが日本昔話」、年代によって違うが、その積み重ねを継続してきたことが、遠野のイメージとして出ているのかも知れない。

【回答：高宏さん】 コンビニがなくていい人だけでも来てくれればいいし、そうなることで客が客を呼ぶことになると思う。何もないことを売りにすることには賛成。コンビニがないと不満を言っていた人にも、気付かせられるようになればいいと思う。

【回答：三浦さん】 コンビニがなければいいなりに、そんなにこだわらなくていいと思う。

【回答：松田さん】 遠野のトルコキキョウは有名ブランドで、東京の大田市場からもっと出して欲しいと需要はあるが、栽培に手間暇かかり、後継者となる若い人がいない。一方で都会では農家体験などを求める人がいっぱいいる。これまでのノウハウはあるので、後継者がいないところに上手くマッチングさせられればと思っている。

○後藤議員

カップ捕獲許可証など、カップをイメージした観光宣伝が一番良いのではないか。子供たちが来れば親も来る。カップを全面に出した工夫が何かあれば良いと思う。

曲り家は今の程度現存しているのか、そのうち市ではどの程度管理しているのか。

【回答：伊藤さん】 カップ捕獲許可証は大ヒット作で、テレビでも取り上げられた。遠野物語100周年の時は、水木しげる先生が漫画化連載したものが単行本になったので、妖怪ファンを集めてイベントを開催した。カップのキャラクターグッズは、遠野市オリジナルのカリンちゃんなどたくさん種類がある。また、小さなジンギスカン鍋「かっぱん」を旅館用に出した。遠野の人からすれば、カップや座敷わらしには飽きているが、外に出ると遠野のイメージは、まだまだカップや座敷わらしなのであって、もっと突き詰めたほうが良いと思う。外から来る人が求めるイメージを共有し、勉強する機会があれば、皆の取組にできると思う。曲り家は、一番大きな千葉家は国の重要文化財になり、市が買い上げ10年かけて補修工事を行う予定である。伝承園の曲り家も国の重要文化財であり、昨年萱の葺き替えが行われた。

ふるさと村にも7棟ある。観光と合わせ、文化を守り、産業を守り育てている。

○佐々木（努）座長

観光振興と商工振興は切っても切り離せない。商工会として観光分野と一体になった取組をどのように進めているか。

〔回答：須藤さん〕 遠野には夏場は観光客が来てくださるが、冬場は大幅に減ると聞いている。

長い冬の間、ひなまつり、どべっこ祭り、ふゆ物語という3本立てのイベントを組んでいる。

バイパスが通ったことで大型店が出店し、街なかの商業者もそちらへ店舗を出すなど、街なかを歩く人が少なくなったため、このひなまつりを始めたと言っている。今年で16回目になる。一か所の大きな会場に飾るのではなく、江戸、明治、大正、昭和の昔からある古びなや装飾を加えた新しいものを、66か所それぞれのお店に飾って、そのお店の人が歴史なども含め説明する。まず、見て回って知っていただく。12日間の開催期間があるので、一度で回れなければ翌週の休日に再び来られるお客様もいる。

市立博物館でも毎年古びなの展示があるが、市広報紙面の一角に4人まで入場可能なチケットを付けて、地元の方にも見ていただく工夫をしている。紙で作った「ひとがた」はひなまつり10周年を機に始めたが、体の痛い所や体に付いた汚れを、これに移して川に流すという400年前の流しびなに由来する。そういう歴史なども学びながら古いものを再び呼び起こし、街が賑わい元気になれるといいと思っている。

〔回答：松田さん〕 シャッター商店街と化し、日曜日に開いている店も数えるほどの寂しい街並み

を少し変えたいとずっと思っている。昔商売をしていた人は商店街にずっと住んでいる。若い人もずっと遠野に住みたいが、働き口がないので都会へ出てしまう。その商店街の一角を貸して、そこで若い人が新しく出店するという形で上手くかみ合わせることで、若い人で活気ある街をつくれるのではないか。今風の街並みを目指すのもいいが、逆に、遠野の古き良きふるさとの風景を感じてもらえるような商店街にできれば理想的と思う。

○佐々木（努）座長

先程高宏さんから、点と点がまだ上手く結びついていないとの話だったが、具体的に遠野全体としてどのように点と点を結び付けていくのか。取組はどのようになっているか。

〔回答：伊藤さん〕 遠野市の人口規模や若者の比率からすると、自発的に独自の活動をしている

人が比較的多いと思われる。市民の舞台、遠野物語ファンタジーも何十年と続いているし、それぞれの団体の活動が個々に完成されているので、他と結びついて何かやろうというきっかけや必要性があるのかどうか。

〔回答：高宏さん〕 必要性まではないが、つながったら違うものが生まれると思う。

〔回答：伊藤さん〕 今でもある程度回っているから、どこかと一緒にやらないとだめになる訳で

はない。皆でやったらもっと大きなことができるかもしれないが、きっかけがないのかも。

〔回答：高宏さん〕 私は立ち上げてまだ4年で実績もあまりないので、一つの点ではあるが、

線になったときに一緒にやれる自信がなく引込み思案だった。今回このような場所で話す機会を与えていただいて、これがきっかけで線になっていくのではないかとと思っている。

【回答：伊藤さん】カレッジの研修事業で関係者へお願いする場合は敷居が低く、協力が得られたり、教えていただける。最初から、事業を一緒にやって完成させようと言うと少し荷が重かったり気持ちが引けたりする。カレッジで試しにやってみませんかという機会を増やせれば、もしかして点を結ぶ線になるかもしれないので頑張っていきたい。

○佐々木（努）座長

その辺は、遠野市ではしっかりできているものと思っていたので、逆に驚いた。

【回答：川口さん】15年前は約1,500人あった駅の乗降客は今700人ちょっと。10年後はどうなっているか分析する中で、農商工や観光まで含め、どのようなビジョンを立て、次の手を打っていけるかが課題である。そうした中で、若い人、特に女性の力がすごいと見て見ている。

【回答：高宏さん】私は遠野駅のすぐ真横に居て、観光ふるさとガイドも行っている。特につながりを持っているわけではないが、仲間や観光協会といろいろなことがやれている。

【回答：傍聴者（遠野市商工観光課観光係長 菊池さん）】点の活動はそれぞれ行われているが、横軸の連携を強化したいとの思いがあり、平成22年度観光庁のモデル事業の観光地域づくりプラットフォーム事業に手を挙げ、全国6か所の中の1つとして遠野市が選定された。観光関係者の委員36名で委員会を5回開催し、連携体制の青写真を描いたところで震災がありトーンダウンした。

平成26年度には商工会の事業を活用し、各観光施設支配人や二次交通関係者ら10人の委員で観光マーケティング委員会を設け、これまで勘と経験と思い込みで進めてきた観光振興を見直すこととし、8～9月に来訪者約900人へのアンケート調査を実施した。どこから来たか、年代はどうかなど回答の分析を行い資料にまとめた。来訪目的は遠野物語かと思いきや、回答者は20～40代の女性が多かったためか、カップと座敷わらしに会うためとの結果であった。

今年度は、この調査結果を検証する取組を行いつつ、四季を通じて調査を行い季節ごとのニーズ、動向を分析する。調査結果を踏まえ、ターゲットを絞り、また新たな客層も発掘しながら観光振興を進めていきたい。

○佐々木（努）座長

最後に数人の方から、今日の感想又は行政全体への意見などを伺いたい。

【三浦さん】子ども語り部というものが附馬牛、土淵、綾織、小友の各小学校にある。子供たちは一人一つ物語を必ず覚え、高校を終わって都会へ行ってもどこかでそれを語る。それを聞いた人が遠野を訪れてくれることもある。また、遠野小学校では、遠野物語をベースにしたミュージカルのような遠野の里の物語というものもある。

機会があれば、子どもたちの語りを聞いて欲しい。涙が出るほど本当に素晴らしい。私たちよりも子どもたちが一生懸命やっていることをわかって欲しい。そういうものを大事にしてやっているのです、是非皆さんにも宣伝していただければ嬉しい。

【川口さん】60歳を過ぎた人の移住について、青森県では知事を筆頭に是非やりたいということで取り組み、十和田市や弘前市などへ移住している。当社の大人の休日会員を是非対象にし

たいと思っている。

震災復興の関係もあると思うが、移住計画も含め来年度からでも岩手県で是非取り組んでいただきたい。

〔傍聴者（遠野市商工観光課観光係長 菊池さん）〕 観光客の傾向については、さまざまな方がいらしているので、幅広い対応が必要と考えている。

また、観光案内板が多過ぎるとの意見もいただいているが、市として最小限の整備は必要と考えている。

○工藤議員

遠野の観光に取り組んでいる若い人たちが集まって先程まで話されたように、今後いろいろな形で連携をとっていけば、もっと大きな形で遠野の観光振興になるのではないかと思いついて聞いていた。

私の家は古い曲り家で、遠野市の文化財にも指定されている。ここには、座敷わらしが住んでいると思っているし、遠野には昔からそのような家が結構あると思っている。

そういう中で、遠野の観光振興がますます発展するよう、今日いらした県議には今後とも御指導よろしく願います。

◆ 閉会

○佐々木（努）座長

本日は、皆様から貴重な御意見をいただき、大変勉強になった。特に企業との連携が地域にとって望ましいことや、今は点と点だが、これを線にすることで展望が開けてくるということである。今日いただいたさまざまな意見が、県内全体に波及されていけばいいと思う。遠野市さんが岩手の観光産業の先導役、リーダーとして、一生懸命取組を進めていただきたい。

本日は、お忙しいところ、御参加いただき誠に感謝申し上げます。